

謝辞

序章 科学の世界に不正は存在しないのか……………1

科学の世界にはどれだけ不正があるか？ 2／研究資金を追い求めて

3／不正をどう阻止するか 5／科学研究の実態 7

1章 暴かれた不正取り引き ピア・レビュー制度の弱体化……………9

ピア・レビューの実態 11／カルプ対NSF事件の背景 13／ある告発

17／カルプの反撃 21／エチオピアの政情 25／カルプの三つの申請 26

／競争相手が審査委員 27／怪しげな噂 29／噂の真相 32／審査の再現

35／二つ目の作為 40／科学における魔女狩り 45／消された評価 47／

得をしたのは誰か 50／CIAの噂はどこから生まれたのか 54／巧妙

な機密文書管理システム 60／財団は申請者いじめをしてきたか？ 64

2章

巨額な研究資金のゆくえ 科学も良識も存在せず……………67
意外なNSFの決定 68 / 地震工学研究センター設立計画 70 / 研究センター設立の疑惑 74 / 決定は公正だったか? 78 / 誤解と偏見に満ちた報告 84 / 検証 証 91 / 科学的価値を無視した決定 107 / パイ(国家予算)分配の仕組み 110 / もみ消された事実 115 / この事件が意味するもの 117

3章

超大型科学と政治のゆがんだ関係 科学が政治に利用される………121
SSC計画 122 / ペンタゴンのお得意先 125 / ロー・ボールゲームを楽しむ議会——自己落札 133 / スター・ウォーズ計画の顛末 138 / テラー書簡 145 / 対衛星兵器の矛盾 149 / 有効な兵器たりうるか 154 / 空想的すぎる超大型科学 156 / ウッドラフの異議 159 / テラーの裏工作 165 / 論争の的となったGAO報告 168 / 初の科学真理法 175

4章

データの改竄とその後始末 基礎研究における不正行為……………177
発覚したブリーニング事件 177 / スプラークによるブリーニング調査 179 / ピッツバーグ大学の調査 180 / NIMHによる調査 181 / 密告者への報復 184 / ダーシー事件 188 / ボルティモア事件の真相 189 / 科学共同体へ送られたボルティモアの書簡 195 / オトウールの証言 204 / ボル

テイモア取調べに応じる 208 / アイゼンに手渡したボルティモアの覚書
214 / ステュワートとフェダーの登場 218 / ボルティモアの反論 223 / 科
学者集団の反応 229 / ボルティモアとN I H 報告 232 / ボルティモア書
簡とN I H 委員の利害対立 235 / 驚くべき方向転換 237 / この事件が残
したもの 239

5章

汚れた収益 命よりも利益優先か? …………… 241

ゾーマックス薬禍事件 243 / 同時開発の及ぼす影 269 / 隠された真実 283
/ 知らされなかつた外国の状況 290

6章

真理の追究よりも優先すること 科学研究における善悪の逆転 …………… 301

論文発表に潜む裏の事情 301 / 利害の対立に絡む二つの事件 303 / カン
テキン論争とブルーストーン事件 311 / はたして科学の公正は守れるの
か 358

7章

ペンタゴン科学ゲーム 法外な研究開発の値段 …………… 359

兵器開発の法外な値段 360 / 研究開発という名の狐と狸の化かし合い
363 / 真実を伝えるものたち 372 / ペンタゴンの科学プロジェクトの評価
374 / 秘密の科学 II ペンタゴンによる研究開発の隠蔽 383 / “同時開発”

400 という名の研究開発 389 / 試験実施における不備 399 / 兵器と規格水準

8章

われわれの進むべき道は? 401

疑わしい経費 401 / 自己規制はできないのか? 406 / 研究を監視する権限 408 / 議会による監視は有効か? 413 / 実際はカンガル―裁判(私的裁判) 415 / 三つの解決策 420

訳者あとがき 429

